

恩地 孝四郎 / ONCHI Koshiro

田中 恭吉 / TANAKA Kyokichi

藤森 静雄 / FUJIMORI Shizuo

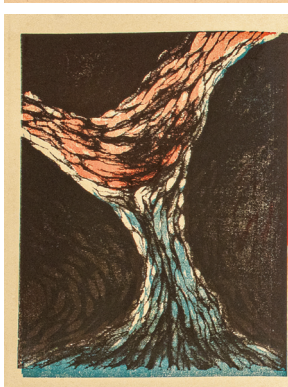
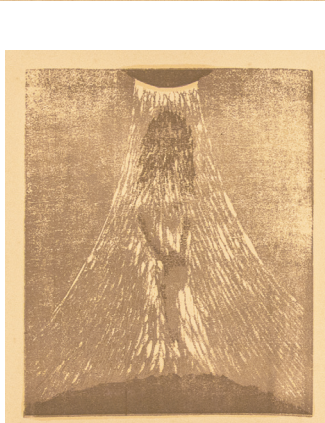
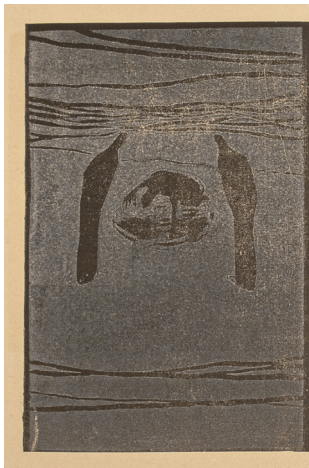
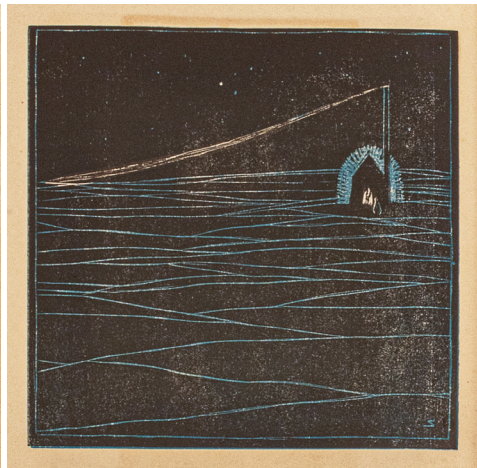
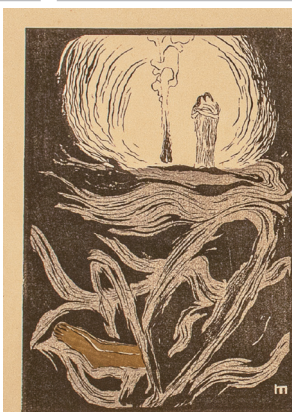
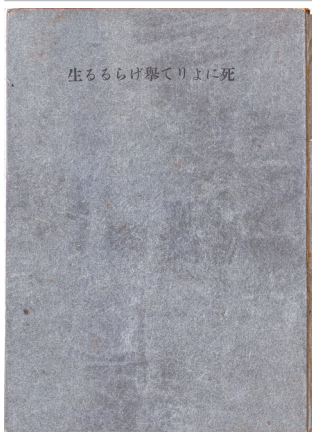
大正3年9月、3人の美術学生によって60ページ足らずの冊子が世に送り出された。恩地孝四郎・田中恭吉・藤森静雄による木版画と詩の作品集、『月映』である。文芸誌『白樺』などで日本に紹介され始めた西洋美術の影響を受けながら、病に苛まれ文字通り命を刻むようにして制作を続けた田中恭吉と、田中に触発され美しい友情を交わしつつ、生死について深く内省する作品を生み出した藤森静雄、日本で最も早く抽象表現へと進んだ恩地孝四郎により、『月映』は近代日本の美術史を彩る珠玉の作品集となった。公刊『月映』は自刻木版を機械で刷って制作され、発行部数は200部ほど。恩地と藤森はそれぞれの個性を迫及した木版画を制作、病床の田中は木版画こそ多くは作れなかったが、詩歌を数多く発表した。



219. 月映 I

大正3年 25.8 × 19.1 cm ed. 200 少ヤケ 桐箱付

価格はお問い合わせ下さい。



220. 月映IV 死によりて挙げらるる生
大正4年 26.3 × 19.2 cm ed. 200 ハードカバー ヤケ

価格はお問い合わせ下さい。